

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに事業所の目標や個人の目標を立てている。理念を共有し、実践に繋げている。(笑顔・言葉・食・住まい)	「共に歩む」という法人の理念が職員一人ひとりに浸透しており、定例会議やカンファレンス、申し送り時にスタッフ間で確認し合っている。理念を具体化した「コンセプト」には一日の支援における大切なものとして「笑顔」、「言葉」、「食」、「住まい」の四つが上げられている。職員も具体的に実践するために半期に一度個人目標を立て、入居者との意志の疎通を大切に、また対話の中から本人の思いに歩み寄れるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の折、近隣の皆様と挨拶を交わし、お花・野菜を頂くことがある。地区の行事・小学校・ボランティアと積極的に、交流を楽しませて頂いている。	複合施設全体として区費も納め区の行事案内や地区の小宮御柱祭のお知らせなどが配布されている。近隣には小学校や保育園があり、保育園の子供達の訪問時には肩もみや手遊びなどで交流し、小学校の児童がオペレッタを演じたことがきっかけで普段も来訪し楽しい時間を過ごしている。また、今年は7年に一度の御柱の年に当たり、複合施設玄関前を小宮の御柱曳航があり、お祭り気分を味わった。習字や読み聞かせなどのボランティア等も受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々の相談者にアドバイスをさせていただいたことがある。今後地域への貢献が課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告、利用者様の状況等報告し理解を頂いている。意見・要望を参考にサービスの向上に努めている。	入居者、家族代表、区長、民生委員、広域連合職員、市職員等が出席し、防災訓練をはじめとした活動や入居者の状況等が報告され、意見交換がされている。メンバーから入居者個々での外出支援についての提案をいただき実施にいたったこともあり、意見や要望等は職員全員で検討している。	メンバーをはじめ地域の人々から認知症やホームへの理解と支援を更に得るために、運営推進会議の開催回数を可能な限り増やしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ、市関係者と連絡を取っている。介護相談員来所予定である。	併設の介護老人ホームと共に市指定管理者として受託しているため、市の担当窓口とは連絡を取り合う機会が多い。法人として周辺の市町村でも受託している介護予防対策の一環としての「特定高齢者介護予防事業」を複合施設として市から受託しており、運動や栄養、口腔ケア等の指導に当たっている。市から派遣される介護相談員も12月から来所予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」の意識を持ち対応している。見守り体制強化し、リスクの高い箇所の施錠を最小限に行っている。	身体拘束についての研修が実施されており職員は身体拘束をしないケアについて十分理解している。現在、拘束が必要となる方や外出傾向の見られる方は全くない。ホームは傾斜地の1階にあるため入居に当って本人や家族には危険箇所についての施錠について説明し了承をいただいている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修・ミーティング等で理解を深め、虐待に関する意識を高め、ケアを行っている。		

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する理解を深めるよう、ミーティング等を通じ話し合う機会を持っている。権利擁護を利用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に書類を通じ、充分説明しご理解を頂いている。質問しやすい雰囲気作りが心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置、苦情・要望が反映できるよう心がけている。また、ご家族様来所時要望等ご意見をお聴きしている。	自分の意志を表せる入居者が殆どで、職員への信頼感も厚いためか腹藏なく言いたいことを発言する場面もある。家族等が参加できる納涼祭等の行事を開き、職員と交流する中で要望や意見の聞き取りをしている。職員構成も人生経験豊かな方が多いので家族等も話しやすく、来訪いただいた折に意志の疎通を図っている。「グループホーム寿和寮通信」もほぼ月に1回のペースで発行されており家族等とのコミュニケーションを取るための有効な手段となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・ミーティング・カンファ・個人面接等を通じ意見を反映させている。	スタッフ会議が毎月一回開催され職員の意見・要望等について提案する機会として設けられており、活発な意見交換がされている。朝会や連絡ノートなどでも情報の共有化を図っている。職員の個人面接も半期に1回実施されており、個人目標や法人独自の「接遇100項目自己点検シート」を介した振り返りの場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力、実績を把握しねざら各自がやりがいや向上心が持てるよう、また、労働時間、職場環境にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用、職員全員が参加できるよう配慮、資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴・性格・ご希望など情報を頂きその上でご本人のお話を充分傾聴し、信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること・不安・要望等を時間をかけてお聴きし。出来る限り要望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向に沿い、必要なサービスを見極め、暫定プランを作成、統一したケア提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持ち、畑作り・お料理の仕方・昔の話・等教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に支えて頂く部分・施設が支える部分を共有し、共にご本人を支えていく関係を大事にしており、情報をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の主治医を継続してお願いしている。知人、訪問看護師の来訪や馴染みの場所への外出を大事にしている。	入居前にお世話になったヘルパーの訪問を受ける方や知人の訪問を受ける方もいる。また在宅時の書道の先生にお願いしボランティアとして習字の指導に来訪していただき、馴染みの関係を継続できるように支援している。入居前によく見に出かけていた市民会館での恒例の催しなどにも数名ずつにわけ職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の状態を把握し、お互い助け合い支えられるよう、席の考慮・話の仲介等スタッフが調整役を行っている。		

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご希望があれば支援・相談をさせて頂きたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に時間を過ごす中で、ご本人の思いや希望を言葉のみでなく表情からも受け取り、情報を共有している。日々の変化・気づきを見逃さないようにしている。	入居者の生活歴や家族等からの聞き取り、入居後の日々の心身状態等を把握し、思いや意向を言葉や表情から推測し、各入居者にきめ細かく対応している。職員と「手」と「手」をつなぐことで「安心」する入居者もあり、日頃の支援に対して心から「ありがとう!」と感謝の言葉を返してくれる方もいるという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報・ご家族、知人が来訪時お話を伺いミーティング・カンファ等情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることチェック表を記入評価し、少しでも生きがいに繋がる役割が持てるよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族様の意向に沿い、カンファレンスでの意見を参考にご本人が自分らしく生活できるように作成している。	センター方式を導入しており、ホーム独自のアセスメントシートも作成し併用している。職員は一人から二人の入居者を担当しており、月に1回カンファレンスが開催されている。計画作成に当り気をついた点などを話し合いきめ細かい検討を重ねており、6ヶ月に1回は計画の見直しをしている。状態が変わった時は緊急に検討し、随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化、気付きはカードックスに記録し情報共有している。勤務時間前に記録の確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により通院の送迎、お見舞い付き添い等柔軟な対応を行っている。		

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の夏祭り・どっこいしょ広場・ふれあいフェスティバルへの外出、近くの保育園・小学校と交流している。12月より市の介護相談員の訪問を予定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望に沿い、入居前の主治医継続で複数の医療機関にお願いしている。平常はご家族が受診に付き添い、必要に応じスタッフが対応している。	入居前からのかかりつけ医を継続しており、半数近くの入居者が医師の往診を受け通院されている方もいる。入居前からの訪問看護を継続している入居者もいる。緊急の場合は家族に代わり職員が付き添いをするが、窓口を計画作成担当者に一本化し家族との連絡をとっている。入居者の中には介護度が進んできている方もおり、状態の変化に合わせてきめ細かい対応が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職配置されており、状態変化や気付き等連携を取りながら対応している。かかりつけ医の訪問看護師との連携も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供し、ご家族、医療関係者と話し合いを持ち、早く退院できるようにしている。 お見舞いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向をお聴きし、安心して最期を迎えられるよう、スタッフ、関係者で相談していく。ターミナル研修実施した。	開設して2年目ということもあり、まだ看取りの経験はない。法人としての「重度化及び終末期に向けた指針」があり、看取りについての研修も行なわれている。入居時にホームとして対応できる能力について家族等には伝えており「看取り介護についての同意書」もいただいている。現在そのような介護を必要とする方はいないが、今後対応をしなければならぬ事態になった場合には自然な形で対応できるよう体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体急変時の対応について研修を受け、急変搬送マニュアルを掲示してある。常にシミュレーションし、慌てないようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設施設と合同防災訓練実施、独自の訓練や消火訓練、災害時の食料・飲料水を備蓄している。また、運営推進会議を通し地域に協力をお願いしている。	消防署の指導の下、年2回、複合施設全体で防災訓練を行っている。また月1回ホーム独自に夜間伝達訓練や入居者参加の避難訓練等のミニ訓練を実施している。地区との申し合わせで複合施設の非常時には応援をいただき、逆に地区の方が一の際は事業所を「避難場所」として提供しよう双方で了解している。スプリンクラーの設置については来年1月に予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーに配慮した対応を行っている。接遇チェック表を記入、自己を振り返っている。守秘義務を徹底し個人情報情報は漏らさないようにしている。	個人情報の保護も含めた研修が実施されており、入居者個々の名前呼び方などにも配慮がされている。2ヶ月に一度、接遇や人権意識についての自己チェックのための「自己診断ノート」で再確認をしている。自己採点后施設長あてに提出しており、守秘義務等について貴重な振り返りの機会となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る穏やかな雰囲気を大事にし、お一人お一人に合う言葉かけや表情から思いを汲み取り、本人の自己決定を待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にできるだけ希望に沿うようにしている。日課(入浴・食事時間・行事)等大きな流れはほぼ決まっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはおしゃれを楽しむようにし、本人の好みでカットされている。また、その日の気分化粧を楽しまれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に沿うよう献立を考え、盛り付け、味付け等工夫、一緒に食事をしBGMや会話、楽しい雰囲気でき食事できるよう配慮している。餃子・おはぎ・お寿司等一緒に作っている。	ほぼ全ての入居者が自力で食事ができる。食形態も水分のみに「トロミ」をつける方がいるがキザミ等にすることは今のところない。入居者と職員が同じテーブルで食事をとっており、入居者が下ごしらえをした「パセリのゴマ和え」についての会話で盛り上がった。メニューは職員が考えており、調理も巧みであった。複合施設中庭で収穫した野菜や職員が家庭より持参し入居者とともに漬けた漬物も食卓に上ることがある。昔懐かしい「干し柿」や「干しイモ」づくりにチャレンジするなど出来る範囲で入居者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせて栄養バランスを考え、過不足にならないよう食事・水分量観察し、体重の増減・アルブミン値に注意をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後個別にうがい・口腔ケア・義歯洗浄を行っている。口腔内清潔に努めている。		

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、尿意を大切にしプライドを傷つけない本人の意思を尊重した対応にて介入、布パンツ継続支援に努めている。	入居前は全員の方がリハビリパンツを使用していたが、職員の努力により大半の入居者が布パンツへと移行している。一部介助が必要な方が若干名いるが殆どの方が自立している。排泄パターンに沿って誘導するのではなく、本人が普通に尿意を訴えるまでは待つ姿勢を保っている。夜間については安眠することを優先しており、時間では起こすことのない支援で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫・起床時水分補給・運動等で予防を心がけている。排便チェックにより内服の必要な方は医師、看護師と連携をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4日を入浴日とし、体調、希望等考慮、くつろいだ気分でゆっくり入浴できるよう心がけている。脱衣室・浴室内1人対応し入浴を楽しんで頂いている。	入浴日は月・火・木・金で少なくとも週2回は入浴している。月ごとにローテーションを組み入浴の順番を公平にしている。入浴は午前中の時間帯が多いが、時間をかけゆっくり入る方が多い。浴室・脱衣場は十分な広さがあり、ゆったりと入れる空間が確保されている。浴槽が広く深いので、入居者の状態に合わせて浴槽内に台を置くなど工夫している。入浴を拒む入居者には午後や一番風呂等で対応し気分を変えていただいている。リンゴを浮かべたり、乾燥した大根の葉を入れ温泉気分を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自由に、好きな場所にて休息が取れるよう、落ち着いた和やかな空間を整えるよう配慮している。利用者様はゆっくり過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・量・目的・副作用についてはファイルし、変更時は記録にて周知、状態の観察を徹底している。声だし・2重・飲み込みチェックにて内服支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりが楽しみの多い、張り合いの有る日々が送れるよう、生活暦を大事にし、趣味・生きがいに繋がる役割の環境を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿い、出来る限り外出の機会を作っている。ご家族の協力もあり帰宅、外食等楽しまれている。	職員のフットワークはとても軽く、天気の良い日には戸外へ積極的に出掛け、雨天の日には複合施設の建物3階の一周すると400mにもなる3階の廊下の散歩などホームの環境を活かした工夫が見られる。また市の芸能祭「ふれあいフェスティバル」や踊りの発表会などを見に市民会館にも出かけている。ハヶ岳農場へおむすびを持参し、全員で高原の散策を楽しむこともある。	

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了解のもと、施設で小額を預かり管理させて頂いている。希望者(2名)は僅かなお金を所持されている。外出時、訪問販売時本人が購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、本人が書いた絵手紙を、家族に出される時がある。状態に応じ、直接電話でお話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にお花・観葉植物を置き、人形や七夕・正月飾り等季節感が味わえる、居心地よい落ち着いた雰囲気保てるよう工夫している。	キッチンとつながった食堂兼居間のテーブルには季節の花々が置かれ、入居者全員の習字や折り紙などが壁に飾られている。大きな窓からは複合施設の中庭が眺められ、植栽や空、流れる雲から季節の移ろいを感じることができる。床暖房になっており、寒冷の地である当地の冬対策として居心地の良い暖かな空間が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、戸外にソファ、椅子を置き、多数や1人でもくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた、馴染みの椅子・机・テレビ・ぬいぐるみ等置かれている居室や、何も置いてない居室と常に本人の気持ちを大事にした環境作りに配慮している。	各居室の入り口には入居者に合わせた目印があり、自分の居室がすぐ判るように工夫されている。居室には洗面台と収納用のロッカーが二つ設置されており各居室とも整理整頓が行きとどいている。趣味の楽器や文庫本が置かれたり、花や絵などを思いのままに飾ったりと、各入居者ごとに暮らしやすい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかりやすいよう表示している。安心して自由に活動でき、混乱しないよう環境を整えている。		